

## 【作文の部】 文芸賞

ぼくとひいばあ

本郷小学校 六年 小坂 雄大

ぼくには、九十四才のひいばあがいます。みんな『さあばあ』と呼んでいます。さあばあは、昭和三年生まれで、戦争も体験しています。昭和、平成、令和と三つの年号を生きていて、昔話はとても興味深いです。特に家の前がバス停なので、昔切符を売っていた話や、バスガールがいたという話は、今では考えられないのでおどろきました。道路の真ん中に水路があった話も面白かったです。

さあばあは、裁ほうも得意です。ぼくの手下げかばんや巾着ぶくろなどは、全てさあばあの手作りです。小さいころは、ぼくと同じ大きさのゴロン太人形も作ってくれました。最近は、針に糸を通すことができない、つかれてしまうと言ってあまりできなくなりました。それでもぼく達兄弟のために、弁当ぶくろを作ってくれました。

さあばあは料理は、おいしいです。この時期は、小さいじゃがいもを使った『みそかんぷら』を時々作ってくれます。『みそかんぷら』は、小さいもを油であげ、みそと砂糖で味付けした物ですが、その味が丁度いいのです。

一回作ってくれろと、ぼく達兄弟がすぐにペロリと食べてしまいます。母などが作ったものを食べたこともありますが、とてもさあばあの味付けにはかないません。

ぼくらが庭で遊んでいると、さあばあはそつと見守ってくれます。それは、小さいころからずっとで、安心して遊べています。ぼくが自転車に乗り始めたころは、後ろを支えてくれました。ソリ乗りの時には、ソリを引っぱってくれました。そしていつも、

「雄ちゃんはすごいなあ。なんでもできるな。」

と言ってくれました。ぼくはそう言われて、とてもうれしくて、自信がつきました。

さあばあは、いつもぼくをうれしくさせてくれます。ぼくが泊まりに行くと、とても喜んでくれます。ご飯もおやつも

「たくさん食べる。」

と言ってくれます。宿題をしても

「難しいのにすごいなあ。」

とほめてくれます。ぼくの心は、いつもほわっと温かくなります。

そんなさあばあが、数年前に入院したことがあります。コロナが流行り始めたころだったので、お見まいには行けず、とても心配だったし、さみしかったです。退



院してもどってきた時は、少しやせていましたが、元気はあったので安心しました。

今ではすっかり元気になりましたが、年のせいかわかれやすいと言っています。だから、これからはぼくがしてもらったようにそつと見守ったり、料理をしたり裁ほうをしたりしたいと思います。そのためには教えてほしいことが、まだまだたくさんあります。だからこれからも、元気で長生きしてほしいです。